

議 事 録

テーマ	平成30年 第3回 しろうま Pal House 保護者懇談会	No.	
日時	平成30年8月19日 日曜日 13:00 ~ 17:15		
場所	白馬村役場 多目的ホール		
出席者	保護者13名、白馬山麓事務組合 副管理者1名、理事1名、 支援係事務局2名、舎監1名、ハウスマスター3名		
資料	別添のとおり		

1 開会

白馬山麓事務組合 理事（小谷村副村長 荻澤）

2 挨拶

白馬山麓事務組合 副管理者（白馬村副村長 藤本）

3 会議事項（進行：白馬村副村長 藤本）

録音タイムテーブル

0:00～

DVD 上映「さわやか信州」

3:30 開会～挨拶

7:00～

1) 寮の運営体制について

【資料1】白馬高校支援担当局長 松澤が資料1に基づき説明

- シフトパターン表詳細説明

女性ハウスマスター松澤三千代さん採用報告。もう1名、全国募集、来週面接予定。採用決定すれば9月中旬より勤務。面接不調の場合は、引き続き募集を続け、その間は、村内の女性臨時をお願いし、シフトを組んで対応していく予定。

- 地震発生時の運営体制の変更について

発生時、寮に不在の生徒については、当該生徒からも寮に連絡するよう追加。合わせて避難訓練を9月に実施予定の旨、報告。

- 施設の営繕関係について(齋藤主査)

生徒からの要望等を受け、それぞれ改修等実施および計画。主なものとして、防犯等の観点から舎監室に鍵を設置並びに防犯カメラ、防犯ベルの設置を計画。連絡体制の強化として固定電話からの転送用携帯電話の導入。

(質疑)

(保護者) D のハウスマスターが決まらない場合、F の臨時職員が入る旨、説明があったが、D が決まれば F は無しということか。

(事務局長) D が決まったとしても、F は、高校の先生、事務局が入ることも想定している。

(保護者) 前々から心配されていた、施設が古く、耐震調査が必要という話があったがその後どのようなになったか。

(事務局長) 次第の今後の日程にもあるように、9 月 10 日頃に、耐震診断の調査を予定。その結果に基づき、対応することになる。

(保護者) シフト表は男女合わせてのシフトなのか。日勤で言えば A が男子で、C が女子ということなのか。

(事務局長) A が男子、C が女子と決めているわけではなく、それぞれで男女寮を担当することになる。

(保護者) 必ず男女寮に一人はいるということか。

(事務局長) 夜勤は必ず一人ずついるが、平日の日勤は、時間帯によっては、一人になることもある。生徒のいる土、日曜、祝日は二人体制を考えている。

(保護者) 生徒が出かける朝の時間帯は、一人しかいないのか。

(矢口舎監) 早朝は、自分が来ているので、二人体制。

(保護者) 新しい体制では、今までのように矢口舎監にお願いするのか。

(事務局長) シフト表を基に進めるが、場合によっては、舎監にお願いすることも。

(保護者) 新しいハウスマスターは、日勤、夜勤の配分はどのようなになるのか。

(事務局長) 週 5 日勤務中、夜勤 3 日、日勤 2 日を考えている。

(保護者) 信頼関係が大事なのに。寮は家と同じ。どうも足りない。一生懸命やっていることはわかる。寮生とハウスマスターが繋がっていない。大変厳しいのではないか。数か月たってどう変わった。ハウスマスターを責めているわけではない。実際はどうか。

(藤本副村長) 人員不足のところ、信頼関係において、臨時職員、学校の先生で補っているが、女子寮に決まった人を配置していくことも信頼関係に繋がっていくと考える。ハウスマスターとの信頼関係も時間が掛るが 4 月から新たに来て、頑張っているところ。

(HM) 生徒指導において、一定の水準は行なっているつもり。信頼関係では、前任の山口さんは、1 年、2 年の実績があった。自分らは物理的に時間が足りていない。生徒とハウスマスターの人数比率も大きく変わった。マナーに対する指導は厳しく行なっている。人によって指導方法も異なる。叱るか、褒めて伸ばすか。

(保護者) 生徒は大変多感なとき。実家に替わっての接し方は困難。大変難しいが、それなりの覚悟を持ってやってほしい。寮で窃盗があった。その話は今日、あるのか。

(事務局長) 現在、大町警察署で調査が進められている。結果は確定していない。あくまで生徒の更正を目的に行なわれているため、2 ヶ月くらい掛るようなことを言われている。

(保護者) そのとき、ハウスマスターとしてどのような対応を取ったのか。あってはいけないことが起きた。

(藤本副村長) 盗難の件に関しては、警察の調査が入ったので、一ハウスマスターとしてではなく、村として対応している。まだ、確定していない状況。一人生徒が自宅待機している。調査中

は、他の生徒への影響も有り、帰寮は難しいと考えている。

(保護者) 何か起きたとき、一番近いところにハウスマスターがいる。そのときどうしたか。

41:00

(藤本副村長) ハウスマスターから報告は受けた。その後警察が入ってからは役場が対応している。

(保護者) ハウスマスターに聞いている。真っ先の状況を聞きたい。

(HM) 本人から申し出が有り、無くなったとわかったときに、本人の勘違いなども含め状況を確認した。他の生徒が勘違いして持って行った可能性、また親切で寮長等他の生徒が持って行くことも過去に多々あり、気を利かせて持って行ってないかなど確認をした。次に今回は緊急事態と判断。ハラスメントでどこかに捨てられてないか、寮の回りなど、スタッフ二人で探した。次に生徒の承諾を得て、各部屋にそれらしい荷物が無いか、隠されてないか調べた。その状況を管理職等に速やかにエスカレーションした。

(保護者) 現金はなくなってないのか。何が無くなったのか。

(HM) 荷物が無くなったことの説明。

(保護者) 現金の説明もしてくれるのか。

(事務局長) 現金についても関連とすることで警察が調査している。

(保護者) 現金が無くなったということか。

(事務局長) 宅配便の盗難と現金と両方。

(HM) 現金のときは、夜 9 時の点呼のときに布団の上に財布を置きっぱなしにしておいたら無くなったと報告を受けた。点呼終了後、その現金がいつまであったのか、どのタイミングで無くなったのかを確認。その状況をエスカレーションして、丁度そのとき局長が在寮であったので、対応を協議した。自分一人の判断では行動していない。あってはならないことが起きたということでベストを尽くした。

(保護者) ハウスマスターは現場にいる。先頭に立って生徒全員を集めて、経過を説明して。盗難はあってはならないこと。何か他人事に聞こえる。

(荻澤副村長) 盗難があって、説明のとおり対応した。それが通り一遍で悪いということならば今後、考え直さなければならない。各部屋を回って確認した、その対応のどこが悪いのかわからない。一堂に集めて説明して、その後、各部屋回った方が良かったのではということであれば、今後、課題として考えなければならない。

(保護者) あってはならないことが起きたのだから、皆で討論させて。最終的に警察が入ったということは、アウトだ。家庭内で現金が無くなったと同じだ。

(荻澤副村長) 警察を入れた判断は、ハウスマスターの判断ではなく、こちらの方に現金が無くなったと報告があった時点で、こちらで善意で調べても白黒はっきりしない。高校生といえど犯罪を犯せば刑事事件になる。素人が動くよりしっかり警察を入れて対応することがベストだったと考える。今でも間違いではないと考えている。

(保護者) もっとぶっちゃけて話さないか。いつも形式的だ。

(荻澤副村長) 舎監もハウスマスターもその場で出来ることを行なってきた。通り一遍だということであれば、皆さんから提案があれば受け入れていきたい。今回の件はハウスマスターもしっかり対応し、こちらに話があった段階で警察にお願いすべきと判断した。

(保護者) 起きたときに寮生にどのように話しかけ、どのように対応したのか。犯罪が起こったことに考える時間を取ったか聞きたい。

53:00

(HM) 現金がなくなったことに関しては、小銭が、300円とか無くなったことは多発している。取った人間が悪いことは当然。起きていることが事実であり、頻発している。にも拘らず、財布を置けばなしが多いことも事実。呼びかけとしては、自分自身のものは、貴重品入れに入れるとかして防ぐしか方法がない。

(保護者) 実家を離れて寮生活をしているということは、一番近い方は、・・・と考えるのではなく、事が起きた時にどうすればいいか。ハウスマスターとして何をすべきか。このままでは、1年、2年経っても何も変わらない。通り一遍の説明ではダメ。

(荻澤副村長) 意見としてお聞きし、直すべきはしっかり検証する。

(保護者) 過去にも数百円なくなったとかよくある話と子供から聞いている。よくある話という状況に対し、対策、子供たちに考えさせる機会とか、団体生活の中で実際に起きているなかで、何か対策は取ってきたのか。

57:15

(事務局長) 例えば、洗濯物の中に現金が入っていたらしく、そのお金が洗濯場に善意で置いてあったということは聞く。日頃より、自発的に自らルール作りをして、自己管理の徹底を指導してきているが、できていない状況。有効な方法は出てきていない。例えば食事を取ったか取らなかったか分からない生徒がいるため、名札を置き、食べた生徒は名札を移動し、食べたことをはっきりさせる工夫とか、取り組みをしている。

(藤本副村長) 盗難等いろいろあると聞いている。すべての事案が取られたのかどうかははっきりしていないものもあるよう。全ての盗難を一様には扱えない。だが、最近、風紀が乱れているということも聞く。寮則等一度きっちりと説明をして、どのようなことを注意していくのか生徒自身に考えさせる場を作っても良いと考えている。

(保護者) 盗難が起こらないための対策として、寮生間の人間関係に問題があるということは無いのか。

(藤本副村長) そこまで結び付けて考えたことは無い。もしかしたらあるのかもしれないが。なかなか生徒間の人間関係はわからないことが多い。盗難があれば事実をしっかり調べていく。人間関係に重きを置くとそれはそれで問題かと思う。

1:03:00

(保護者) 事故の場合、人間関係から起きていることが多い。普段の生活の中でじっくりしていないとか。いがみ合っているとか。寮で生活している。学校、寮で事故が起こることが多い。側面として人間関係から見えていくことが必要。信憑性はわからないが、ハスマスターがどの学年が良いあるいは悪いとか言っていると子供から聞く。君らはダメだとかいって接していくと子供らにもストレスが溜まっていく。公平公正な見方をしていけないと人間関係はうまくいかない。何回も繰り返し行っていくことによって自覚していく。

(藤本副村長) 意見として承る。

(保護者) 食事を取ったか取らないかわからないという話し。把握できる環境にないのか。

(事務局長) できる環境にない。そうならないように名札によって確認できるよう工夫している。

(保護者) 日曜日も好き勝手な時間に食べているようだが、日曜日も把握していないのか。

(事務局長) 食べる生徒は〇をつけることで行っている。

(保護者) 何時ころ食べたとかは。

(事務局長) 時間までは、把握していない。

(保護者) 持って行ったがちゃんと食べたかまではわからないのか。

(事務局長) 原則、食堂で食べることになっている。中には、外、あるいは部屋でという事例もあったが、今後は、食堂で食べることを徹底指導する。

(保護者) 食事でも大事だが、盗難などが発生している。学校でも現金盗難が発生している。リュックを隠されたとか。学校とか役場とか言っている場合ではなく、連携してしっかりやってほしい。財布をちゃんと片付けるとかハウスマスターも苦労しているよう。夏休みに入る。家庭でもしっかり指導するよう保護者に知らせてほしいとお願いしている。今日の出席率を見るに、盗難があった、もしかしたらいじめもからんでいるとか、大変な事態だとして出席されているが、この人数は。来てない人は、起こっていることを知らないのではないか。子供を預けていて、問題も起きた、警察も介入した、大変だと思わない親はいないはず。話を聞かなければ、意見を言わなければと思うはず。あまりにも少ない。大変な状況を知らない。学校がアンケート取ってもダメ、ハウスマスターが指導してもダメとなれば、保護者が危機感をもって、帰っている間、様子を見て、声がけしてみてもよかったが、この人数しか集まらないということは、多くの保護者は危機感を持っていないのではないか。事実すら知らないのでは。お知らせして協力願えないものか。

1:13:00

(藤本副村長) 保護者に連絡し、協力願いたいと考えている。

(保護者) 過日、ホームページを開設されたが、良いことしか載らない。寮内で起きた悪いことも載せてほしい。そうすることによって自分の子供は大丈夫か考える。親から声をかけることによって抑止力にもなるのでは。良いこと、悪いことどんなことがあったとしても、どんなことが起こっているのか知りたい。それによって子供に声を掛けられるのでは。

(藤本副村長) 問題があったことは、保護者へ知らせる必要があると考える。プライバシーの問題もあり、些細なこともあり、どこまで載せるかは、判断が必要。当然、保護者へ知らせるべきことは、何らかの形で連絡がいくようにしたい。検討させていただく。

(保護者) 現在、寮は、安心して暮らせる状況にあるのか。

(藤本副村長) 個人の受け止め方にもよるが、寮に顔を出してみるに、生徒は機嫌よく生活しているように見受けられるが。思春期でもあり、分からないところもあるが、比較的気持ちよく生活しているように見える。個別的に風紀の乱れはあり、直さなければならぬが、生徒にきっちり話して、改善され良い寮になるよう努めたい。

(保護者) 突発的な事件は日々あるかもしれないが、基本的には安心して暮らしているということか。

(藤本副村長) そう考えている。

(保護者) 舎監、ハウスマスターも同様か。

(舎監) そういう場でなければいけないと考える。努力しているが、多少、至らない点もある。盗難などがあったということは、多少、そういう場ではなかったということかと。

(保護者) 何かが起こっているのではないかという不安を感じている。何かが変わったということではないのか。

(舎監) 人数が増え、盗難とかあるが、寮則を守らないことへの指導はしているが、みんなの気が緩んできているということもある。朝、点呼に遅れても注意されるだけだからいいだろうとか、昨日も外泊届を出さずに、違うところに泊まった寮生がいて、ハウスマスターも困惑した。

寮則をしっかり守らせることを徹底したい。

1:20:00

(保護者) 最初は、外泊届は、子供からLineで知らせ、OKなら返信するというやり取りがあったが、以降無い。外泊届出してあるから大丈夫だという話だけある。親の許可のものと外泊届なのか、子供が出したければ出せるものなのか知りたい。

(舎監) 親が了承しないといけない。

(保護者) 子供に聞かれたことがない。子供とのやり取りで帰ってきていいよとは言っている。親が許可したという確認がどのようにされているのかわからない。子供の管理はどうなっているのか。

(舎監) 信用しなければというところもある。ルーズにはなっているところも。常に親に確認取ること、時間と労力がある。Lineを見せられてOKしていることも。なかには、親の許可を取ってない生徒もいる。

(保護者) Lineの画面は確認しているのか。

(舎監) している。

(保護者) どこに外泊するか確認することからも、親と子のLineをしっかりさせるということもコミュニケーションとして大事。しっかりやってほしい。

(舎監) わかりました。

1:24:00

(保護者) 前ハウスマスターの山口さんと役場との関係はどのようになっているのか。山口さんから聞くところによると、寮生が山口さん宅にたむろしている。ハウスマスターとしてどう考えているか。

(藤本副村長) 村との関係は、ハウスマスターとしての雇用関係はない。山口さん宅に何人かの生徒が行っていることは、把握している。その件について、実態を確認するため山口さんと話した。どのような事由で訪問し、どのようなことをしているのか確認した。

(保護者) 確認の結果は、どのようなものか。

(藤本副村長) 個人の情報もあるので、言いにくいこともあるが。

(保護者) ぶっちゃけ話してほしい。

(藤本副村長) 山口さん曰く、他愛もない話しをしていると聞いている。5%くらいは、寮の内容とかを話している子もいるようだ。

(保護者) 寮に問題があって、山口さん宅に行っているということは無いのか。

(藤本副村長) 寮における人間関係とかで、行っている子もいるようだ。

(保護者) 子供らは、当然寮にいなければいけない。寮生が山口さん宅にたむろしていることについて、どう思うか。

(HM) 子供を預かっている立場として、夜9時以降は、保護者に事前連絡して、外出、外泊届をして行くのであれば、親も承諾し、本人も希望しているので良いと思う。問題は、親が知らずに夜9時以降、そのようなところに行っていることは、あってはならないことと考える。保護者にも連絡し、共有は可能な限り行っている。夜9時以降は、未成年一人の判断で、友達の家や山口さん宅なり出かけることはあり得ない。保護者、舎監、ハウスマスターが知っている必要はある。でなければ未成年の事故は防げないと思う。

(保護者) 現状を聞くに、山口さんを頼ることは多いと聞く。少ない人数でやっているのであれば、復

帰を視野に入れて考えることも悪くないのではないか。

(藤本副村長) 山口さんを頼って行っている子がいる一方で、通学路途中の山口さん宅前を通る事体も恐ろしいという生徒もあり、山口さんの姿を見かけただけでも恐怖におびえる生徒もいる。正直、復帰は難しい。

1:29:22

(保護者) 1年の親として、詳しいことが全然わからない。問題があったから契約が切れたとは思いますが、何が起きたか話せないのか。

(藤本副村長) 全ての事案は、難しいが、行き過ぎた指導等があった。生徒に対し、車の中に連れ込み、携帯を取り上げるぞとかの話があった。

(保護者) 車の中とはどういうこと。

(藤本副村長) 車の中で説教をするに、携帯を見せろとかいうやり取りがあった。特定の生徒に対するえこひいきが日々の指導のなかで多くあった。そのような積み重ねの中で、契約を打ち切った事態となった。

(保護者) 山口さんをよく言う人と、良くないという人とがいると聞かす。

(藤本副村長) そのとおり。

1:31:40

2) 寮則について

【資料 2】 矢口舎監、資料に基づき説明

(舎監) 4月に保護者へ説明してあるが、生徒には、再配布し徹底したい。なかで、食べ残しの指導について、夏休み、文化祭のころ、昼を頼んであるが食べない生徒が多く、7つとか余る日があり、共立さんへお詫びをしている。誰かもわかっており指導している。学習時間の件も決まっているが、寮生の決め事もあるようだが、徹底されていないところもあり、ハウスマスターとも相談し、徹底するよう努めている。外出、外泊届がきちんと出ていないとか、3日前までに提出となっているが、直前に出したりとか、喫食表との関連もあり困っている状況。自己物品の管理についても、財布等はロッカーに入れ鍵をかけるように指導している。勝手に事務室の電気スタンドを持っていき返さないとか、事務室に入ってパソコンを勝手に使っている等あり、必ずきちんと申し出るようにも指導している。道徳教育をきちんとしているつもりではいる。大変悲しい状況だと思っており、寮則はきちんと守らせたいと考えている。6月改定については、守れていない事項の再徹底を追加規定したもの。

(保護者) スキー部に入っており、朝食が早いと、パンが毎日、1か月くらい続き、具合が悪くなったと聞く。費用が掛かっても良いので菓子パンではなく、ちゃんとした食事にしてほしい。今夏、白馬も暑く、来年に向けて部屋に扇風機を設置してほしい。

1:41:20

(舎監) 運動部は、6月から朝練習が始まっている。夏休みは、今年は暑いので熱中症対策としても少し早くなるかもしれない。5時30分ごろの食事、6時過ぎには寮を出なければならない。通常朝食は7時からであり、早朝の生徒数も増えてきていることから、共立さんとは相談をかけている。

(藤本副村長) 村としても検討したい。

(保護者) 規則を守れない生徒がいるにもかかわらず、放置しているのはどうなのか。以前は厳しく指導されていたと聞く。決められている規則を守らせることは当たり前のこと。守られず厳しい

指導をしても、ハラスメントだという親はいないと思う。せっかく決めた寮則なので、しっかり浸透するようにしてほしい。ガバナンスがしっかりしていれば、物がなくなるようなこともなくなる。厳しい指導を受け成長した生徒もいる。そんな思いを込めてしっかり指導をお願いしたい。

(舎監) (お礼)保護者から今の意見をいただくと大変心強い。指導したいが、保護者から色々な意見が寄せられ、指導できない状況に追い込まれている。親の応援をいただければ寮則を守らせるようしっかり指導したい。

(保護者) 外泊、外出するためには親の許可がいるということを親にしっかり伝え、許可が得られなければダメだということをしっかり共有したほうがよい。

1:45:50

3)保護者からの問い合わせ等について

【資料3】白馬高校支援担当局長 松澤が説明

1:56:10

(保護者) 寮生と直接面談してほしい。

(藤本副村長) ハウスマスターと生徒の面談か。

(保護者) そう。

(藤本副村長) 検討する。

(保護者) 学習の時間に集まりはするが、学習せずにスマホゲームをしたり、遊んでいる状況があると聞く。具体的対策はどうとっているのか。

(HM) 勉強中にスマホを使用している生徒はいるが、聞くと勉強に使っていると返事。勉強しているか遊んでいるか判断は難しい。スマホ禁止とか手段もあるが、検討が必要と思う。

(保護者) うるさく騒いでいるという状況ではない？

(HM) 程度の問題。勉強していない生徒に勉強しろということは、困難。逆効果になることもある。個別の面談は有効と思う。もっと踏み込んだ対応が必要。

2:01:55

(保護者) 勉強については、しっかり指導願いたい。山崎 HM に聞きたい。広島での NewVery 研修会の内容と、行く前と行った後で生徒に対する気持ちの変化があったか。

(HM) 場所によって一つ一つやり方が異なる。一人一部屋。共有スペースには、当たり前のように監視カメラがある。時代の流れでもあり監視カメラの必要性は感じた。熱血先生はいい先生だとか、物事に対して主観によることなく、事実に基づいて行動することが重要。ある生徒は一生懸命やっているから、少しくらいルールを破っても良いとか、この生徒はよく、違う生徒はダメとかになることはよくない。門限を破ったらしかるべき対応をとる。組織を維持するための術を学んだ。感情で動くことでなく、画一的な基準で指導することが大事と感じた。ある一部分が優れているから許すとかでなく、きちんと情に左右されない対応を学んだ。

(保護者) 前は感情で指導していたのか。

(HM) 感情は必要。感情を抑えることも必要。デリケートで繊細で、経験とフィードバックも必要。勉強、日々反省をしている。

(保護者) 寮を出ることについて考えているということは、そのような生徒がいるということか。もしいるのであればどのような理由なのか。

(藤本副村長) デリケートな問題であり、当該生徒に話を聞くに、寮内の人間関係で孤立している。寮に居場所がないと感じている。はっきり出ると決まってははいない。

(保護者) わが子も寮を出たいと思っている。友達はあるが、寮生活は楽しくない。学年を越えた人間関係がうまくいっていない。この学年はよくできるが、この学年はできないということを知っている。

(HM) 言っていない。

(保護者) 子供が伝聞として聞いたらしい。去年は楽しかったが、今年は楽しくない。悩んでいる子供が多いと思う。親に言うと心配をかけてしまうから言えない。そのような子がいるということを知ったうえでお願いしたい。

(藤本副村長) 面談の充実を踏まえてしっかり検討したい。

(保護者) 寮を出たい理由を孤立しているというが、わが子が同じ部屋で聞くと、孤立とは違うように感じた。訂正願いたい。勉強時間への協力を呼びかけたが、協力を得られなかったから孤立したかのように受け止めたと聞いている。寮則は必ず守らせるといわれた。寮則を承知して入ってきているのだから、きちんと寮則を守るよう徹底してほしい。わずか1時間の勉強時間、座っているだけでもいい、人に迷惑をかけない、1時間座ってられないのであれば高校生の資格はない。そこは強く出ていい。

(藤本副村長) 寮則、基本的な生活マナーについては、改めて徹底していく。

(保護者) 今回から、太田副村長から藤本副村長に交代か。

(藤本副村長) はい。

(保護者) 3月6日からずっとこのようなことが続いていて、原因は分からないが、寮を出たい子供たちがいる。協議会の中で子供らが訴えかけ、山口さんに残ってほしいという思いを伝えた。叶えられることなく、組織体制が変わり、不安を抱え今日に至っている。保護者として村と協力してやっていきたいが、うまくいかない。それが子供らに影響しているのかもしれない。このプロジェクトには、相当の覚悟をもってやってきている。白馬高校にずっと残ってほしいという思いできている。うるさいことも言うがその中からくみ取って、スピーディーにやってほしい。にも関わらず、ぶった切られ、話が進まない。歩み寄っていかないと。良い寮として残ってほしい。伝えたいことを伝えているが、話が進まない状況。我々も不信感を持っている。非常に良くない状況。白馬高校、しろうま PalHouse を良くしていこうというのに、今日の(出席)人数はあり得ない。警察が入るといった危機的な状況。ガバナンスが利いていない。

(藤本副村長) いろいろ提案いただき、スピーディーにできるところから対応していきたい。足りないところもあったかと感じている。少しでも早く良くしていきたい。

2:16:50

(保護者) 気持ちだと思う。信頼関係がないと子供らも動かない。HMも大変だろうが気持ちを持ってやってほしい。

2:17:18

(松澤三千代 HM 自己紹介)

2:19:00

4) 今後の日程

(支援局長次第資料に基づき説明)

(保護者) カウンセリングは HM も一緒なのか。HM との面談をぜひお願いしたい

(支援局長) 違う。臨床心理士による生徒のカウンセリング。HM とも面談は別途設ける。
(藤本副村長) 情報は共有し、連携していく。

2:25:50

(保護者) 次回の懇談会は何時ごろか。

(支援局長) 12月22日(土)を予定している。

(保護者) 部屋の鍵は、諸事由から設置していないとのこと。内側からしか掛けられないのはどうなのか。今後の運用は。

(支援局長) 運用上、難しい面があり、現在検討中。

(保護者) 鍵をかけることがいいことなのか。1年目は、鍵がなくも何ら問題なかったと思うが。2年目以降、鍵をかけなければいけない状況が起こっているのか。物が無くなっている状況が居室なのか。居室でないならば、鍵はないほうがいい。友達を疑いたくはない。本当に鍵をかけなければならない状況なのか。

(支援局長) 現金のほか、衣類、菓子類に及んでいる。今回の盗難の舎監室における宅配物は、舎監室に鍵、直接の受け渡しで防止する。お金の盗難は部屋で発生しており、いかに防止するかは、部屋に鍵をかけるか、各部屋の鍵付き収納ボックスへ保管の徹底しかないと考える。

(保護者) 1年目は、鍵もない、ロッカーもない状況だった。さすがにそれは如何なものかということで鍵付きロッカーを設置してもらった。親もロッカーにしまうようしつこく子供に言った。2年生、1年生が基本的なことができていないとは思えない。HMもしつこく指導すべき。また親にもできていない状況を知らせ、保護者からもしつけるべき。HMにすべてやっていただくとは思っていない。やらせるのは、保護者の責任。負の情報を知らせてほしい。固有名詞を出す必要はなく、一般論としてこれこれできていない、親に伝われば、親からも強く言える。こんなこと、検討しますとか寝ぼけた事言って、5月から言っていること。負の情報を出してくれとお願いした。3か月もたって、検討しますを信用していいのか。情報により子供にしつけしたい。

(支援局長) 寮則は、4月に示し、生徒にも説明したが、ホームページにも掲載し、保護者がいつでも見られるようにしたい。負の情報も保護者から指導いただくよう周知したい。

(保護者) 情報は、今週送ってよしではなく、随時知らせるようお願いしたい。外泊は、親もいちいち連絡を受けるのは面倒だが、未成年者が、保護者もHMも誰も知らない、どこに行っているのかわからないことは大変良くない。保護者が直接連絡するという基本に戻るべき。面倒だから簡易な方法にするべきではない。徹底してほしい。

(藤本副村長) (無届の)外泊については、非常に問題視している。親の承諾を必ず得る仕組みにしたい。

(保護者) 具体的には。

(HM) 現状、保護者の承諾の確認メールを視認するが、本当に保護者からのものかまでの確認はできない。例えば、保護者からの直接のLineによる届出とすれば、なりすましはなくなる。保護者から直接、証拠が残る仕組みにする方法が良いのではないか。保護者もHMも安心するのではないか。ごまかしは少なからずある。

(保護者) 親になりすまして、Line しているということは聞いている。方法を早急に検討して、対応願いたい。何時頃からできるか。

2:43:20

(HM) 現状の外泊届けには、抜け道があるように思う。HM から役場に提案している。コミュニケーション不足であることは認識している。子供らにかかわらず、保護者との不足も認識している。保護者への関わりをどこまでしてよいのか、システムができていない。まず、子供が親に許可を取って、親として良しなのかどうか確認する方法を提案している。ただ親からの Line を見るだけで判を押すことは危険だと感じている。届出の処理のタイムラグもある。親が確認し、支援係と連絡を取り、許可し、そして HM がその許可をもとに外泊の状況を承知し、逐次、状況を把握するシステムを提案している。

(保護者) 支援係を挟むのはどうか。土、日曜とかタイムラグが生じるのでは。保護者から HM に連絡でよいのではないか。

(HM) 電話では、大人数であり、混乱するのではないか。案として、保護者と支援係専用の Line を設け、外泊の申請、承諾の方が負担的によいのではないか。検討は必要。履歴が残ることが重要。電話では不安。責任が明確になる。

(保護者) 70 人もいて大変だからは、理由にならない。いっぺんに届け出ることはない。加味して方法を考えるよう早急をお願いしたい。塾で遅くなる子がいると聞くと、何時までやっているのか。

(舎監) 夜 8 時 30 分まで。質問とかして遅くなることもある。

(保護者) 遅くも 9 時には、塾を出るだろう。最初からわかっていればそれに合わせた寮則にした方がよいのではないか。指導もしやすいのではないか。共立さんとの調整も必要だとは思いますが、食事時間とか。塾を 9 時に出る、9 時 30 分に寮に帰る。その時間設定にした方がよいのでは。

(荻沢副村長) 共立さんとの関係もあり、基本は 9 時まで。ただし、塾に通っている生徒は、多くはないので、多少遅くなっても片付け等時間はかからないので、理解願いたい。

(保護者) 勉強時間を 1 時間決めて、行うことは必要。赤点取る生徒がいていいのか。学力を上げる。せめて 1 時間くらいは勉強する習慣をつけることは必要。

(荻沢副村長) 保護者の方から、寮則で決まっていることは、徹底していただく。いやな子は、1 時間くらい静かにしている。強制は難しい。そんな対応で当たりたい。

(保護者) 今日の保護者は、2 割くらいしか来ていない。もっと多くなるよう考えていただきたい。一部の子にえこひいきしていることがあった。弓道大会に参加するに、学校の支援も受けられない、列車の時間にも限りがある。仕方なく送って行ったとか、病院へ連れていったとか、事例を聞いている。それももって一部の生徒へのえこひいきしているようにとっている。実際に学校の支援も受けられない生徒もいる。地域の方へ公式にサポートしてくれるようお願いできないか。来年度以降、考えてもらえないか。

(荻沢副村長) 高校の部活動は、寮生に限られているわけではない。顧問の先生がどう判断するか。列車で行くとなれば、全員が列車で行く。仕方ないこと。山口さんが便宜を図ったというのは、一事例であり、万事がそうであったとは思わない。高校が関与している活動については、高校の先生が対応しているものと。保護者が皆、送迎するので、寮生はどうするか顧問から相談があれば、舎監、HM 相談のうえ、対応することになるかと。

(保護者) 学校の問題ではあるが、学校だけをお願いとするのもどうか、寮をお願いすることも。

(荻沢副村長) 顧問の先生に、そのような事態が発生した場合は、舎監、HM に連絡をと。支援係で対応できるものは対応すると学校に申し入れする。

(保護者) 寮の出入り口の鍵について、寮生男女で教え合ったり、寮以外の関係ない人に教えているとか聞く。ナンバーキーが良いのか再検討願いたい。食事について、日曜日に共立さんに入っていただく話があったが、食べない生徒が多い、共立さんに申し訳ない、食品ロスが多いと聞く。寮に入れている以上、基本的指導、規則正しい生活、食事は人間形成の基本。寮で徹底してほしい。そこまでは個人の自由だとか、個人の自由をはき違えることなく、基本的な生活はしてほしい。

(荻沢副村長) 寮則に決まっていることは指導したい。共立さんの件は、予算の問題もあり、決まっていない。良い体制にしたいと考えている。朝の菓子パンは不評なので対応を検討している。土、日曜の食事は生徒間でも話し合い、舎監、HM 含めて一緒に考えていきたい。

3:03:30

(議事終了)

3:04:45

閉会

(白馬山麓事務組合 理事 (小谷村副村長 荻沢))